

## 7 陰部処置用具の考案

国立療養所西別府病院

横 枕 美 子      上 利 知 子  
森   弥 生      森 川 信 子  
矢 野 宮 子      大 口 武 彦

### 〔はじめに〕

当病棟が開設されて11年目を迎え、床上生活をしている長期療養の思春期男子が多くなり、そのほとんどが股関節拘縮、下肢の変形をきたしている。それによる陰部への圧迫が通気を妨げ、夢精などの排泄物で特に発汗の多い夏では陰部が不潔になりやすい。それらが原因で、陰部の掻痒、発赤、湿疹、ひどいものでは頑癬ができる状態である。以前はこの予防対策として陰部清拭を毎朝1回行っていた。排便後など陰部が汚れている場合はその都度清拭を行っていた。下着は風通しのよい丁字帯を使用し、下着交換は最低1日1回行ない、陰部の清潔に努めた。

また薬も何種類か使用してみたがあまり効果がなく、夏では完治するのに長期間かかっていた。そこで清拭よりも陰部を洗浄した方が汚れがおちやすく、薬の作用もよくなるのではないかと考え、ベット上で陰部が洗える器具の考案を試みた。

### 〔作製に至るまでの経過〕

ベッド上で現在使用している物品からヒントを得て作製した。

1. ゴム便器を患者の殿部にしき、お湯と石けんで陰部を洗った。その結果 ①患者の変形の為殿部にあたるゴムの部分が狭く安定が悪い。②便器が小さい為、充分なお湯を使用されない。これらの欠点を参考にして次の器具を使用してみた。
2. ケリーパードを使用した。その結果 ①ゴム便器と違い、排水ができるのでお湯が充分に使用できる。②深さが浅い為に殿部がおちこみ、汚水が殿部につき不潔である。
3. そこで1. 2の欠点を参考にし、身近な物品で次のような器具を作製した。
  - ① 直径45cmのタライを深さ9cmに切る。
  - ② タライの底に近い部分に、直径2cmの穴をあけて接続管をつけ、それに洗濯機の蛇管を接続して排水できるようにした。
  - ③ タライの中に、直径約45cmの軽自動車のタイヤチューブをはめこみ、クッションをつけた。
  - ④ 費用はタライ1,000円、タイヤチューブ1,500円、蛇管220円、計2,720円程度で作製できた。

### 〔器具の使用状況〕

器具を殿部にしき、排水は蛇管よりベッドの下に置いてある汚水用バケツの中に流す。スポン

ジと石けんを使用して陰部周囲をお湯で洗い流す。なお、お湯は洗髪車のシャワーを使用した。患者の背部が不安定な場合は、背部にバスタオル、枕、バックレスト等を使用して安定させた。

### 〔結 果〕

- ① 洗浄を開始した日から、湿疹のひどい患者でも8日間でよくなった。
- ② 洗うという事で、清拭よりも気持ちが良いと好評であった。

又、タイヤチューブ器具の欠点として

- ① 患者により、腰部異和感を訴える者もいたが上半身挙上や背部にバスタオルをしく事で訴えは少なくなった。
- ② 排水孔の位置がタイヤの側面にあるので、排水がスムーズにいかず底に汚水がたまる事があった。

### 〔おわりに〕

陰部の清潔の保持及び頑癬や湿疹の予防に対し、洗うという事は大変良い結果が得られた。器具作製から使用に至るまで、患者と共に協力しあい、少しずつ使いこなしていった。今後も患者にとってより安楽なものになるよう、さらに工夫して有効に利用していきたい。

## ⑧ 坐位姿勢を保つための自助具の考案

国立療養所西別府病院

大 谷 喜栄子      山 元 よみ子  
小 平 まゆみ      安 川 郁 子

### 〔目 的〕

片膝立てて起坐している患児の場合、骨格筋の萎縮と筋力の低下のために、躯幹、四肢の変形があり、起坐時の姿勢を保つことが困難となる。病状が進行するにつれて、長時間の固定が保ちにくくなり、患児に不安や恐怖を与え、又捻挫や骨折をおこしかねないので起坐時の安定を計るために、足の滑り止めを工夫する。以前は、おしぼりを足の下に敷き足を固定させていたが、固定も充分でなかったので次の方法を試みた。

### 〔方法及び結果〕

- (1) 車のタイヤチューブの利用、チューブを楕円形 21.5 cm × 31.5 cm に切り、2枚ボンドではり合せ、それに足をおおう様に布でカバーをした。カバーはマジックテープで取りはずし出来る

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

〔はじめに〕

当病棟が開設されて11年目を迎え、床上生活をしている長期療養の思春期男子が多くなり、そのほとんどが股関節拘縮、下肢の変形をきたしている。それによる陰部への圧迫が通気を妨げ、夢精などの排泄物で特に発汗の多い夏では陰部が不潔になりやすい。それらが原因で、陰部の掻痒、発赤、湿疹、ひどいものでは頑癬ができる状態である。以前はこの予防対策として陰部清拭を毎朝1回行っていた。排便後など陰部が汚れている場合はその都度清拭を行っていた。下着は風通しのよい丁字帯を使用し、下着交換は最低1日1回行ない、陰部の清潔に努めた。